

【取組内容①】 子ども一人一人が問題解決をする授業づくり～クラウドを活用して思考過程を共有できる工夫～

子どもが自己調整できる学習活動

教科書・資料の読解

他者参照

情報収集 → 整理・分析

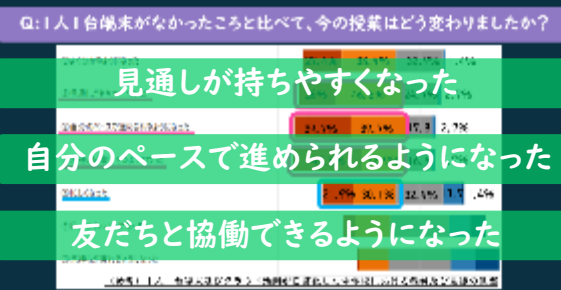
まとめ・表現

研究当初の授業と最近の授業の比較（6年生社会科）



児童の学習状況の変容

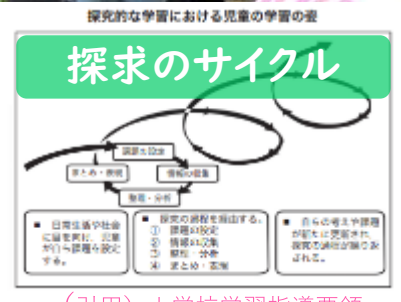
子どもたちの捉え（児童アンケートより）



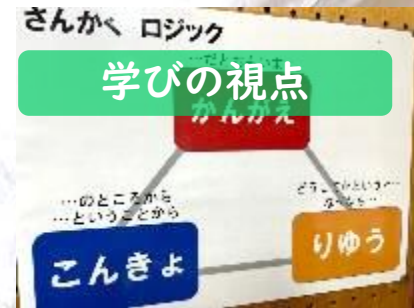
児童の実感の変容

【取組内容①】 子ども一人一人が問題解決をする授業づくり～クラウドを活用して思考過程を共有できる工夫～

自分の考えを持って行う協働的な学び



(引用) 小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」



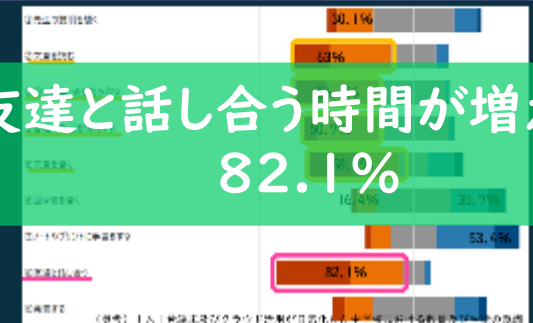
- アウトプットすることによって自己の理解度を認知する。
- 説明する中で不確かな理解を自覚した場合は、不足した情報を収集し直して補っていくような学びの姿も見られる。

●授業では、課題解決に向けて子どもたちが情報収集し整理分析して終わるのではなく、必ず、自分の学びを伝え合う場をもし「ディスカッション」の過程を大切にしている。

子どもたちの捉え（児童アンケートより）

Q:1人1台端末がなかったころと比べて、授業中に次の時間は増えましたか？減りましたか？

友達と話し合う時間が増えた
82.1%



【取組内容②】 端末の持ち帰りによる家庭学習の充実と協働的な学びの質を改善する工夫

「家庭学習と授業」が連動する学びのサイクル

【取組の目的】

- 自律的な学び方の習得と意欲・態度

【目的達成のための工夫】

① 家庭学習において深い学びができるしかけづくり

- ルーブリック評価による家庭学習の意欲付けを図る。

② 授業(問題解決学習)における協働的な学び

- 児童自身が深める時間を確保し、学びを深める。



【取組内容②】 端末の持ち帰りによる家庭学習の充実と協働的な学びの質を改善する工夫

「家庭学習と授業」が連動する学びのサイクル

家庭学習



調べ学習



動画視聴

課題の設定



課題解決のための対話充実

学校の学習

情報の収集

ループリック 評価

情報整理



整理・分析

思考ツール

情報から考えをまとめる



まとめ・表現

【取組内容③】 教職員が主体的に学校運営に関わる提案型職員会議の工夫

教職員のオーナーシップでつくる学校運営の工夫

【取組の目的】

- 職員一人一人が学校運営の当事者であることを自覚して、意欲的に取り組むことができるしくみ・環境をつくる。

【目的達成のための工夫例】

- 意思決定の流れを示したフロー図(右)作成
- 会議の進め方・提案方法の改善
 - ① 企画書の様式作成
 - ② 管理職と協議し、企画書案を作成
 - ③ クラウド上で全教職員に共有（会議前の1週間前）
 - ④ 前日までに意見を集約（後閲機能、コメント機能）
 - ⑤ 会議では変更点・補足のみを説明

